

2025 年頭に思うこと

住みよい世の中を切り開く年にしよう

皆さま、明けましておめでとうございます。

昨年は元日に能登半島周辺で大規模な地震が発生し、その後の豪雨災害とあいまって、被災者の生活再建は未だ道半ばであると言えます。国外では「終戦の兆しが見えない」ウクライナ紛争に加え、イスラエルによるパレスチナへの武力攻撃が延々と続いています。国内に目を転じると、裏金問題に端を発した政治とカネの問題に対して有権者が厳しい審判を下し、自公政権を衆議院で過半数割れに追い込みました。

労働条件の面では三年連続となる賃上げを獲得できた一方で、慢性的な要員不足による過重労働が問題となる職場の実態が表面化してきています。私たちは引き続き、トラブルを抱える相談者に寄り添い、団体交渉等を通じて問題解決に全力で取り組みます。

隣国の韓国では、政権運営に窮した大統領が非常戒厳を宣布、その僅か6時間後に国会議員の決議により解除されるといったニュースが世界を震撼させました。非常戒厳を無効なものとするため、軍隊の前に市民が身体を張って議員の国会議事堂への入場を支援、引き続き大統領弾劾運動の中心を担っているのは10代・20代の若者だと報じられています。住みよい世の中を築いていくために奮闘していくことを決意し、年頭のご挨拶とさせていただきます。(細川雅弘)

最賃引上げ宣伝行動を実施しました

昨年12月7日10時からJR姫路駅北で街頭宣伝行動を行い、7人が参加しました。道行く人々・観光客に対して、「兵庫県では今年10月から最賃が1052円に引き上げられたが、物価上昇に追い付いていない。」「最低賃金制度が法制化された当時から社会情勢が変わっている。非正規職員が家計の中心を担っている世帯も多くある。最賃を、今すぐ1500円

に」と訴え、用意したビラとポケットティッシュを配布しました。

